

三筋山に風車は要らない！



188

36

21

どちらかといえば 反対	わからない	どちらか といえば 賛成
----------------	-------	--------------------

▲アンケートの結果

入谷水下区の風力発電勉強会が8月3日、10日行われました。アンケートも実施され、その結果は246名の回答中「どちらかといえば反対」が188名の多数でした。ちなみに「賛成」が21名、「わからない」が36名。この様に多くの住民は風車に不安感を示しているのに、事業者は計画を進めようとしています。

自然に恵まれた私たちの故郷に「風がいいから」などという事業者の都合で巨大な風車を20基以上も作らせていいもののでしょうか？細野高原は背後に天城をひかえ、眼前には伊豆七島を浮かべた太平洋が広がる一大パノラマの絶景地です。箱根の仙石原をはるかにしのぐ大草原であり、県の天然記念物に指定されている湿原が点在し、多くの貴重な動物、植物があります。稲取は水の美味しいことも自慢です。それは三筋山から下方にスコリア層があって、これが雨水を浸透させ、長い時間をかけて地表に湧出させるからです。熊口水源がこれです。こうした微妙なバランスの上に細野高原はあり、私たちの生活は成り立ってきました。

住んでいる私たちが誇りにしているこの美しい郷土は、それだけ弱いものでもあります。そこに高さ100メートルもの人工物を20以上も作って、影響がないはずはありません。いま「大嶺山の4基さえ作らせなければすべて問題は解決する、他の21基は仕方がない」という人がいますが、本当にそうでしょうか？道路は熊口水源の上を通ることに変わりはないし、第一、分水嶺である三筋山にかけて21基も立てるのは、自然のバランスを崩し、水源・湿原を枯れさせ、洪水の危険すら否定できません。東電は昨年12月7日にすでに一番近い住民らに、4基を作らない案を示しています。また平成17年の3月議会で片野町長（当時）は「三筋山から北へ11基、南に11基、合わせて22基である」旨の答弁をしています。

これは初めから大嶺の4基はつけたしで、地元との交渉の切り札に使う意図が見え見えます。だから早々に4基はやらなくてもいいと、東電の責任者が示したのです。今、この「落としどころ」に皆をまとめようとする意見がありますが、これは事業者を元気付かせ、建設を促す、いわば風車を誘致する行為と言わざるを得ません。私たちは「この美しい郷土に風車など1つも要らない」という堅い気持ちで、事業者にお引取り頂こうではありませんか。